

(2) 歳 出

昭和51年度の歳出予算現額1,554,822千円に対し、支出済額は1,553,060千円で、予算の執行率は99.9%となり、残額1,762千円は不用額である。昭和51年度の歳出決算額の款別の内訳は、第3表のとおりである。

(第3表) 昭和51年度一般会計歳出決算額(款別) (千円)

Table with 7 columns: 款別, 昭和51年度決算額(A) 構成比, 昭和50年度決算額(B) 構成比, 増減(A)-(B). Rows include 議 会 費, 議 民 衛 生 費, 議 農 林 水 産 業 費, etc.

昭和51年度の歳出決算額の性質別の内訳は、第4表のとおりである。前年度と比べると義務的経費は15.6%、投資的経費は42.7%の増加である。

(第4表) 昭和51年度一般会計歳出決算額(性質別) (千円)

Table with 6 columns: 性質別, 昭和51年度決算額(A) 構成比, 昭和50年度決算額(B) 構成比, 増減(A)-(B). Rows include 人 扶 助 費, 普 通 的 経 費, 投 資 的 経 費, etc.

2. 町民の負担状況

昭和51年度の歳入1,556,337千円のうち、直接町民の負担によるものは税収入84,911千円、税外収入17,835千円(使用料及び手数料、寄附金、分担金負担金)合計102,746千円である。

これを前年度と比較すると税収入で20,595千円の増、税外収入で24,103千円の増、合計44,698千円の増加である。

また町民1人当たりで見ると税収入12,253円(前年度9,053円)、税外収入2,574円(前年度2,017円)、合計14,826円(前年度11,070円)である。前年度と比べると3,756円、33.9%増加した。

3. 町債の現在高

昭和51年度末の町債の現在高は1,148,747千円である。前年度と比べると149,208千円の増加であるが、これは本年度発行額233,400千円が本年度償還額84,192千円を上回ったためである。

昭和51年度末の町債現在高の事業別内訳は、第5表のとおりである。

(第5表) 昭和51年度末の現在高 (千円)

Table with 6 columns: 区分, 前年度末現在高(A), 昭和51年度中の異動(発行額(B), 償還額(C)), 昭和51年度末現在高(A)+(B)-(C). Rows include 1. 一般公債, 2. 一般単独事業債, etc.

4. 一時借入金の現在高

昭和52年6月30日現在の一時借入金の現在高は0円である。

三崎町財政事情の作製及び公表に関する条例(昭和31年条例第13号)に基づき、昭和51年度の財政状況を次のとおり公表する。

昭和52年7月30日

三崎町長 杉山茂丸

1. 一般会計決算のあらまし

昭和51年度の一般会計は、当初1,191,585千円の規模であったが、その後10回の補正により最終予算は1,554,822千円となった。

これに対し決算額は

歳入 1,556,337千円
歳出 1,553,060千円

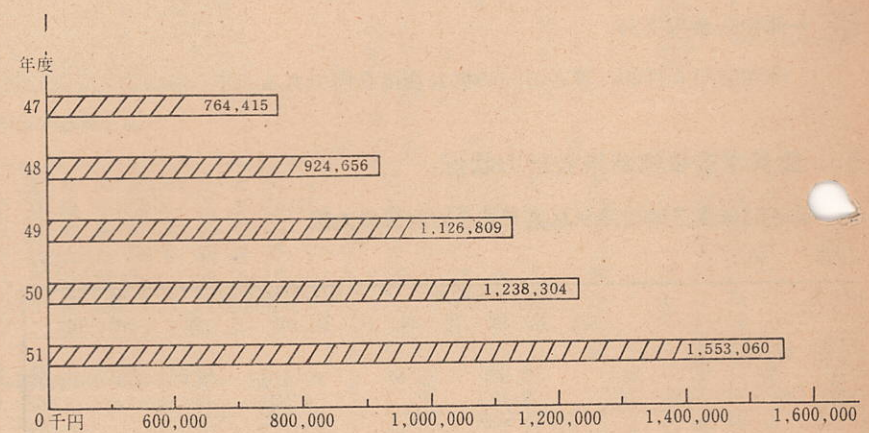
で、歳入歳出差引残額3,277千円を52年度に繰り越した。

昭和51年度の実質収支は3,277千円の黒字であるが、前年度の実質収支が2,831千円の黒字であり、又昭和51年度に2,555千円の積立金があったので実質的な単年度の収支は3,001千円の黒字である。

なお、昭和47年度以降の最近の財政規模の推移をみると、第1図のとおりである。

(第1図)

最近の財政規模の推移(一般会計歳出決算額)



(1) 歳 入

昭和51年度の歳入予算現額1,554,822千円に対し、調定額は1,558,157千円で収入済額(決算額)1,556,337千円、不納欠損額88千円、収入未済額1,732千円である。

昭和51年度の歳入決算額の款別の内訳は、第1表のとおりである。前年度と比べると、

(第1表) 昭和51年度一般会計歳入決算額(款別) (千円)

Table with 6 columns: 款別, 昭和51年度決算額(A) 構成比, 昭和50年度決算額(B) 構成比, 増減(A)-(B). Rows include 町 地 方 税, 自 動 車 税, 地 方 特 別 交 付 金, etc.

昭和51年度の町税収入は84,911千円(歳入合計中に占める割合5.4%)で、前年度の64,316千円(5.2%)に比べると20,595千円の増である。

昭和51年度の町税収入の税目別内訳は、第2表のとおりである。

(第2表) 昭和51年度町税収入税目別内訳 (千円)

Table with 5 columns: 税目別, 昭和51年度決算額(A) 構成比, 昭和50年度決算額(B) 構成比, 増減(A)-(B). Rows include 町 民 税, 固 定 資 産 税, 軽 自 動 車 税, etc.

7. 旅客上屋特別会計決算の概況

昭和51年度の旅客上屋特別会計決算の概況は次のとおりである。

歳入 2,339千円 歳出 2,287千円 歳入差引 52千円は52年度へ繰越した。

(1) 歳入 (千円)

Table with columns: 款別, 昭和51年度決算額(A)構成率, 昭和50年度決算額(B)構成率, 増減(A)-(B). Rows include 使用料金, 繰越金, 合計.

(2) 歳出 (千円)

Table with columns: 款別, 昭和51年度決算額(A)構成率, 昭和50年度決算額(B)構成率, 増減(A)-(B). Rows include 旅客上屋費, 合計.

(3) 町債

昭和50年度末現在高 10,722千円
昭和51年度中償還額 792
昭和51年度中借入額 0
昭和51年度末現在高 9,930

(4) 一時借入金の状況

昭和52年6月30日現在の一時借入金は0円である。

8. 簡易水道事業特別会計の状況

(1) 昭和51年度三崎町簡易水道事業会計決算の内訳

歳入 (千円)

Table with columns: 款別, 昭和51年度(A)決算額比率, 昭和50年度(B)決算額比率, 増減(A)-(B). Rows include 事業収益, 資本的収入, 合計.

歳出 (千円)

Table with columns: 款別, 昭和51年度(A)決算額比率, 昭和50年度(B)決算額比率, 増減(A)-(B). Rows include 事業費用, 資本的支出, 合計.

(2) 企業債現在高

50年度末残高 46,319千円
51年度借入高 0
51年度償還額 1,441
51年度末残高 44,878

(3) 一時借入金状況

昭和52年6月30日現在
65,000千円

5. 町有財産の状況

昭和51年度の町有財産の内訳は、第6表のとおりである。

(第6表) 昭和51年度末の町有財産の現在高

Table with columns: 財産の区分, 昭和50年度末現在高, 昭和51年度中増減高, 昭和51年度末現在高. Rows include 公有財産, 債権, 基金.

6. 国保特別会計決算のあらまし

昭和41年度の国保特別会計の決算概況は次のとおりである。

(1) 事業勘定 歳入 298,935千円 歳出 281,503千円
歳入歳出差引残額 17,432千円
(2) 施設勘定 歳入 273,484千円 歳出 330,654千円
歳入歳出差引残額 57,170千円

事業勘定決算の内訳

Table with columns: 款別, 昭和51年度決算額比率, 昭和50年度決算額比率, 増減(A)-(B). Rows include 国民健康保険料, 国庫支出金, 合計.

歳出

Table with columns: 款別, 昭和51年度決算額比率, 昭和50年度決算額比率, 増減(A)-(B). Rows include 総務費, 保険給付, 合計.

施設勘定決算の内訳

Table with columns: 款別, 昭和51年度決算額比率, 昭和50年度決算額比率, 増減(A)-(B). Rows include 診療料, 国庫支出金, 合計.

歳出

Table with columns: 款別, 昭和51年度決算額比率, 昭和50年度決算額比率, 増減(A)-(B). Rows include 総務費, 施設整備, 合計.

(3) 基金 昭和51年度において財政調整基金として5,000千円を積立てたので、基金総額は20,000千円となった。

(4) 町債と一時借入金の状況

Table with columns: 区分, 町債(52年3月末現在), 一時借入金(52年6月末現在). Rows include 事業勘定, 施設勘定.

串中学校に

夜間照明完成

体力づくりの場 仲間づくりの場に

本年度計画していたが八月末に完成した。串中学校夜間照明施設 事業費三、八〇〇、〇〇〇円、被照面積



三、〇〇五平方メートル、ポール四基に一、〇〇〇ワットの水銀灯二十二灯がそなえつけられ明るい施設となった。当地区は、漁業が中心で夜間しかスポーツに親しむことができなかったこともあり、なお一層喜ばれることと思われる。

教育委員会といたしましては、管理上の問題等がありますが、学校、地区住民代表者十分検討し、ソフトボール、バレーボールのスポーツを気軽に親しむ住民をより多くしたいと考えています。

今後この夜間照明施設が、体力づくりの場ある日は仲間づくりの場となることを期待するのである。

社会教育の現状

—広場—

これまでの公民館は、市町村における社会教育センターとして重要な位置を占め、青年学級、青年、婦人団体等の活動に大きな役割を果たして来た。がしかしここ一〇年余りの間に社会教育施設である図書館、博物館等は順調に増して来た反面地域の住民の生活の中で一番密着していると考えられる公民館施設の数が半減していることは注目すべきである。公民館の減少の理由が地域の公民館としての施設、設備が不十分なうえ専

任、常勤職員の数が少くないことも一つの原因であると考えられる。そして又住民の社会教育に対する必要性から、住民の地域公民館に対する自発的、自主的な運営がなされていぬ点にも問題がある。そこで三崎町の社会教育施設について考えてみる。公民館が、類似施設が六、七あり、中央公民館、町民会館、近着工事業所、公民館、公民館の減少の理由が地域の公民館としての施設、設備が不十分なうえ専

ママさん学級バレーボール大会を開催

大会を開催

町教育委員会、二名東、西の四地区にチームママさんクラブ共催。ム編成をして、トーナメント戦を行った。津ママさんクラブが優勝。夜間照明で明るい学校グラウンドで行われ、午後七時から二名津中を、各チームのママさんたちが、一生懸命に戦った。父兄の応援や子どもたちの見守る中を、各チームのママさんたちが、一生懸命に戦った。父兄の応援や子どもたちの見守る中を、各チームのママさんたちが、一生懸命に戦った。

このママさん学級は六月から開校し、毎月学習会を行っているが、九月はスポーツをとりあげ、学級の体力増進とお互いの親睦を深めるための楽しい集いである。ママさん学級生は、二名津部園園長の配慮により、大会については、中、向



ママさんバレーボール大会

女性に捧げる三十五章

考えてみたいウーマン

リブの現代でも

ある資料の中に「女前頭」と奇妙な番付表があった。そこで番付の良し悪しは別として、この番付表でみる限り、白が良妻、黒が悪妻といえそうである。ウーマンリブといわれる現在、通用しない表現も数多くあるが、そこはそれ、温故知新の精神で、今様「女庭訓」をつくる一つの材料になるのではなからうか。

白

大関 万事主のさしずを請う女房
関脇 貞操正しき女房
小結 子供に儀を教える女房
前頭 家事の手助けとなる女房
なる女房
こまめにそうじする女房
なりふりかまわぬ女房
小遣いまで俵約する女房
主の心にさかわらぬ女房
善をすすむる女房
主の立腹をなだめる女房
先妻の子を大事にする女房
近所つきあいのいい女房
人をそらさぬ女房
嫁に来た当座を忘れない女房
しとやかな女房
小姑をいたわる女房

黒

大関 倍気深い女房
関脇 針仕事のできぬ女房
小結 昼まで朝飯の跡片付けぬ女房
前頭 汚れた枕紙を取り変える女房
流行物を欲しがるとる女房
小鍋立ての好きな女房
寺参りと言うて芝居へ行く女房
お色ごとを言う女房
さし出口をする女房
汚れ物をためておく女房
ぼろをさげさせる女房
口ごたえする女房
わが亭主をほめる女房
わが子をがきと叱る女房
仲人にたびたび世話やかせる女房
銭使いのあらぬ女房
亭主をそしめる女房
べちゃくちゃしゃべる女房

その他

このほど、さざなみ句会創立二周年記念祭を盛大に祝った。席上、三崎町文化功労団体として初の感謝状並びに記念品が、土居教育長から贈られた。優良会員に対しては表彰式が行われ、賞状と記念品が中谷会長から次の諸氏に贈られた。

皆勤賞 中谷平太郎
(段々子)

最多入選賞
第一位 中谷平太郎
第二位 金森 久栄
第三位 山本 義磨
中村千代香
なお、会員、関係者一同が記念撮影を行いました。

又、当日の高点句は次のとおりです。
雨宿り動かぬガマと隣り居て 山本 義磨
草刈機蟬の声もろとも刈りすてる 中井ヤチ子
七夕や年重ねても子をだしにして歩く女房
無策の女房
そそかしき女房
よそへ行ったがる女房
人づかいの悪い女房
朝寝床でたばこをのむ女房
ぜいたくを好む女房
わが里をほめる女房
ぞんざいな女房
夜歩きをする女房
無筆の女房
根性の悪い女房
子供同士のけんか

さざなみ句会

夢多く 野本 貞恵
廃校の待つ人もなき 蟬の声 森田 雅幸
美しき言葉集めて 星まつり 阿部須磨子
うに海士の息はく 岩場屏風立ち 宮本マサ子
お針子も師匠も浴衣 縫い急ぐ 中村千代香
夏の夕老女静かに 海眺む 井上不二男
灼ける石に蜥蜴の腹のよく耐うる 村井 一臘
草清水農婦乳房をこぼし吞む 中谷段々子



にはいる女房

▽編集後記△

「館報みさき」も今回で第六号となりました。時々批評を耳にするようになり、大変うれい反面、広報することのむつかしさをつくづく感じています。今後とも批評だけに終わらず、みなさんの意見、感想、話題などの寄稿をよろしくお願います。次回の発行は十一月